

「第三者評価に参加して～事業者からのコメント～」

聖 母 園

自己評価から始まった第三者評価、それは丁度、自分の中にある二人を見る思いがしました。自分を正しく知るために、内からの自己反省と外からの人の評価、主観と客観、それらが二人の自分を見つめ直し、ひとつになる時はいいのですが、反発しあったときはどのように対処したらいいのかと考えました。善、より良い善、最も良い善、それも誰にとつての善なのか、自己満足ではないのかなど。人間の知恵で絶対的な物は存在しない。善と悪、メリットとデメリットが共存する中で、尊い命をあずかり、はぐくみ、幸せを願う中で評価のチェック項目に目を通しながら、長年、幼い命に向き合いながら、多くの気づきの中で、不完全な自分に気づかされました。

子どもの発達援助、子育て支援、地域の住民や関係機関との連携、運営管理という大区分の中で、すべてに完璧でなくても、課題を感じさせられました。同時にすべてが府に落ちたわけでもありません。人生は勉強と言われ、納得している自分がある中で、生涯を終えるまでにできたらいいという楽観と、今という時を大切に生きなければ、何一つできないという危機感があります。

第三者評価結果票を受けた今、聞く耳を持って望まれることを真摯に受け止め歩むことが出来たらと思います。利己的な人間、つもりの人間、先日園児達と卒園旅行で北九州空港の足湯を訪ね、飛行機の離陸・着陸を見に行ったら帰り、足湯の所で目にした《つもり違い10カ条》①高いつもりで低いのが教養 ②低いつもりで高いのが気位 ③深いつもりで浅いのが知識 ④浅いつもりで深いのが欲望 ⑤厚いつもりで薄いのが人情 ⑥薄いつもりで厚いのが面皮 ⑦強いつもりで弱いのが根性 ⑧弱いつもりで強いのが自我 ⑨多いつもりで少ないのが分別 ⑩少ないつもりで多いのが無駄 そのつもりでがんばりましょう、とあった。

苦笑しながらももつともだと思い、謙虚になって今後とも幼い、尊い、いのちをあずかり、はぐくみ、しあわせを願いながら、子どもとともに、子どもの立場に立って、そして《 神様と人びとから愛され、愛することのできる子どもになりましょう 》という願いのうちに、日々を大切に歩みたいと思います。